

	身に付けさせたい資質・能力	指導の工夫	課題に迫る具体的な手立て	重視すべき単元名
中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正の数・負の数の意味について理解し、その計算が確実にできる。</li> <li>・一次式の意味について理解し、その計算が確実にできる。</li> <li>・同類項、一次式同士の加減の意味について理解し、計算が確実にできる。</li> <li>・多項式と数の乗除の意味について理解し、その計算が確実にできる。</li> <li>・単項式同士の乗除の意味について理解し、その計算が確実にできる。</li> <li>・多項式と単項式の乗除の意味について理解し、その計算が確実にできる。</li> <li>・多項式の展開の意味について理解し、その計算が確実にできる。</li> <li>・因数、因数分解の意味を理解し、多項式を因数分解することが確実にできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリントを作成し、ノート記入の負担を軽減する。</li> <li>・トランプの黒札を財産（プラス）、赤札を借金（マイナス）として、正負の数の加法減法のイメージ化を図る。</li> <li>・面積図を利用し、計算方法を視覚的にとらえさせる。</li> <li>・既習の因数の積と素数の特徴の違いに気付かせる。</li> <li>・2年からは、習熟度に応じた少人数指導により基礎計算力の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校で学んだ計算と関連づけて負の数の計算の意味を理解させる。減法を加法に直し、正負の項として加法だけの計算ととらえさせる。</li> <li>・文字の部分が同じ項のまとめ方や分配法則を面積図で導き出す。</li> <li>・同類項は係数の加法でまとめられることを理解させる。</li> <li>・多項式と数の乗除は多項式の各項と数の乗除で計算できることを理解させる。</li> <li>・単項式同士の乗除を面積図で導き出し、係数同士、文字同士の乗除で計算できることを理解させる。</li> <li>・多項式と単項式の乗除は多項式の各項と単項式の乗除で計算できることを理解させる。</li> <li>・多項式の展開は多項式の各項同士を順番にかけ合わせれば計算できることを理解させる。</li> <li>・乗法公式の暗唱と演習に繰り返し取り組ませる。</li> <li>・乗法公式による因数分解の演習を繰り返し取り組ませる。</li> </ul> <p>〈授業〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の適用問題を次時の振り返り問題として取り組ませる。</li> <li>・まとまりごとに定着度を確認する小テストを行う。</li> <li>・中1では、自分のつまずきを知るために東京ベーシックドリルに取り組みせ、既習事項を理解し積み上げさせる。</li> </ul> <p>〈家庭学習〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小テストの未定着問題に繰り返し取り組みせ、定着を図る。</li> </ul>	<p>【数と式】</p> <p>正の数・負の数 文字の式 式の計算 式の展開と素数 素因数分解 因数分解</p>
小学校5・6年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小数の乗法・除法の意味について理解し、その計算が確実にできる。</li> <li>・分数の乗法・除法の意味について理解し、その計算が確実にできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟度別少人数指導による基礎的な学習の習熟。</li> <li>・継続して繰り返しドリルに取り組み定着を図る。</li> <li>・演算決定にあたり、図や数直線を用いて考えることを定着させていく。</li> <li>・児童の理解度に合わせて、具体物操作や、絵でのイメージをもたせる。（立ちもどり振り返らせる。）</li> <li>・適用問題の時間をつくり定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十進位取り記数法の仕組みを計算に生かしていけるようにする。数直線をかき、数量の関係を視覚的に捉えたり、立式の根拠に数直線を活用させたりする。</li> <li>・言葉の式や数直線をかき、また面積図を利用して計算の仕方を導き出していけるようにさせる。</li> </ul> <p>〈授業〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業ごとに学習を振り返る時間を作り、学びを自分の言葉でまとめさせ、基礎学力の定着を図る。</li> <li>・文章題を解く時には、図や数直線をかいて、題意や数量関係をつかませる。</li> <li>・実物を使える時には、使用したり部分的に描き出したりするなどしてイメージできるよう工夫する。</li> <li>・自分のつまずきがどこにあるのか理解するために東京ベーシックドリルに取り組み、既習事項を理解し積み上げていけるようにする。</li> </ul> <p>〈家庭学習〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宿題等でも計算方法の習熟が図れるよう繰り返し計算ドリルの学習を取り入れていく。</li> </ul>	<p>【数と計算】</p> <p>小数のかけ算・わり算 分数のかけ算・わり算</p>
小学校3・	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乗法・除法の意味の理解と基礎的な計算力を身に付ける。</li> <li>・整数の除法の意味を理解し、筆算で計算する力を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟度別少人数指導による計算の習熟や適用の基礎的な学習の習熟を図る。</li> <li>・適用問題の時間をつくり定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4年の除法の筆算を形式的にだけでなく、上位から計算することの意味や、計算途中でできる部分積の意味を確認し、3年のあまりのあるわり算の考え方に立ち戻りながら、計算技能を高める。</li> <li>・3年生の除法では、図や具体物と関連付けて計算の意味を捉えさせたり、2年生の乗法と関連付けて答えを求めたりすることができるようにする。</li> </ul>	<p>【数と計算】</p> <p>かけ算 わり算 かけ算の筆算 わり算の筆算</p>

			<p>〈授業〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・考えず、教えてもらおうとするので、時間で全体にヒントを出し、自力解決の回数を増やす。</li> <li>・夏季休業中に学習教室や放課後に補充学習を設け、基礎学力の定着を図る。</li> <li>・自分のつまづきがどこにあるのか理解するために東京ベーシックドリルを活用して、それまでの学習を振り返り、基礎学力の定着を図る。</li> </ul> <p>〈家庭学習〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宿題等でも計算方法の習熟が図れるよう繰り返し計算ドリルの学習を取り入れていく。</li> </ul>	
小学校1・2年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整数の加減（繰り上がり、繰り下がり）の意味の理解と計算力を身に付ける。</li> <li>・整数の乗法の意味の理解と計算力を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童のつまづきに合った指導をし、基礎的な学習の習熟を図る。</li> <li>・単元に合わせて、教材・教具を活用する。</li> <li>・掲示物を工夫する。絵で見せて、ブロックで操作し、式にする。</li> <li>・適用問題の時間をつくり定着を図る。</li> <li>・教科書と同じような位取りカードを用意したり、計算の手順をカードにして持たせたりするなど、視覚的に分かるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おはじき、算数ブロックなど半具体物を用いた活動を十分させ、量感を伴って数をイメージできるようにし、抽象化を図っていく。</li> <li>・1年の10の補数を意識させ、くり上がり・くり下がりの計算力の定着を目指す。</li> <li>・乗法の場面をおはじきで表す活動を十分取り入れる。また、アレイ図等の表現を積極的に取り入れることで九九の構成や乗法のきまりを理解させていく。</li> <li>・2年で、かけ算九九の暗唱にとどめず、ばらばら九九や穴あき九九にも取り組ませる。</li> </ul> <p>〈授業〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物や半具体物を操作させて、基礎学力の定着を図っていく。</li> <li>・基礎的内容をプリント等で繰り返して、基礎学力の定着を図る。</li> <li>・毎日の宿題に、計算・文章問題を取り入れ、基礎学力の定着を図る。</li> <li>・夏季休業中に学習教室や、放課後に補習学習を設け、基礎学力の定着を図る。</li> <li>・生活科など他教科の学習の中で、また日常的な生活の場面で量感を養う。</li> <li>・自分のつまづきがどこにあるのか理解するために東京ベーシックドリルに取り組み、既習事項を理解し積み上げていけるようにする。</li> </ul> <p>〈家庭学習〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計算では、計算ドリルを活用して繰り返し計算練習に取り組むようにする。</li> </ul>	<p>【数と計算】</p> <p>たし算 ひき算 かけ算</p>